

不慮の事故と、 新たな転機

94年、ラジオの仕事を終えた帰宅途中、車の運転席側に突如車が突っ込んできた。この事故により天本さんは骨盤を損傷。しばらく杖なしでは歩けないほどのダメージを受けた。レーザーを引退せざるを得なくなり、悔しさでしばらく誰とも会わず、病院以外は自宅にこもっていたという。

入退院を繰り返していたある日、同じ病室にパソコン持参のプログラマーが入院してきた。その人と仲良く話すうち、パソコンの世界の可能性を知ることとなる。「もともと機械は好きです。以前アメリカで『インターネット』なるものを見たことはありましたが、あらためて『スゴイ!』と思いました。これからはきっと、パソコンが広まると感じました」。当時、コンピュータは一部の私たちのものであり、各家庭にパソコンが普及するなんて考えられない時代だった。退院後しばらくして、かつてのレース仲間にも声をかけ、まずはパソコンを使ったデザイン会社を立ち上げた。

子育てを通じて 世界が広がった

事故に遭うことは、確かに不運のひとつである。だが天本さん

にとつてあの事故は、次の人生へ進む節目だったのかもしれない。体は徐々に回復し、後遺症を乗り越えて奇跡的に妊娠。無事に健康な女の子を出産した。

「いろんなことがありましたが、私にとつて一番大きな変化は、やっぱり子どもを産んだことですね。愛しくて守るべき存在を得たこと。また、子育てを通していろんな出会いを与えてくれた娘に、本当に感謝しています」

「短いOL生活のあとは、どつぱりと男社会の中。そんな私にとつて、同じ子どもを持つお母さん方との話は、ものすごく新鮮でした」

ママたちの生の声を聞くうちに、天本さんは次のビジネスのヒントを得ることとなる。ママたちの再就職が難しいこと。保育所が足りないこと。パソコンの操作ができる人材が求められ始めたこと。子ども連れではスクールに通えないこと……。



ゆとりのあるパソコンスペース。奥に託児ルームと事務所がある。

「子育て期間中はプランクではなく、自分を精一杯充電する時間なんです。まずは、ママたちが子連れで通えるパソコンスクールをつくらうと思いい立ちました」

天本さんは最初の会社を知人に譲り、



きながら、目標を立ててがんばる姿つてすてきだし、家族もきつと応援してくれますよ」

「これから私はもっと大きく裂します(笑)。『待つてだけじゃ始まりません。なりたいたい自分に変えていこう』。これが、ずっと自分自身の背中を押し続けてきたメッセージです」

保育園の七夕祭りに、娘がすてきな願いを短冊に込めてくれた。『おおきくなつたら、ママといっしょにはたらかしたい』。

「うれしくてうれしくて。もう一気にガンパロー! つて気持ちになりました」

「美を通して、再就職支援にもつながるシステムです。自分を磨

常にパワーを発信し、周りに元気を与えていく天本さん。その源は、元気をもらっ側の喜びを、誰よりも知っているからなのかもしれない。

「ある男性経営者にさんざん言われました。『託児にこんなにスペースをとるなんてもつたない。それに天神や博多のほうの人が集まる』と。でも、地元のママが、わざわざ街中まで行きますか? それに子どもを預かるからには、きちんとスペースを設けないといけません。そこにこだわったおかげで、口コミでここを知った、子供の生徒さんたちがたくさん来てくれるようになったんです」

待つてだけじゃ、 始まりません!

天本さんはパソコンスクールのほかに、美容ネットワーク『ヴェ

